

## 米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会（第2回）概要

- 1 日 時 令和4年1月5日（水） 13時30分～16時15分
- 2 場 所 米子市立図書館 研修室3
- 3 出席者  
委 員  
ト蔵久子 委員（会長）、渡邊眞子 委員（副会長）、笠井和観 委員、福田知浩 委員、  
足立一穂 委員、湯浅厚子 委員、藤原実男 委員、山本由美 委員  
事務局  
生涯学習課  
木下博和 生涯学習課長、若林伸一 主幹兼社会教育主事、齋藤 彩 主任  
市立図書館  
矢木茂生図書館長
- 4 日 程
  - (1) 開 会
  - (2) 会長あいさつ
  - (3) 議 事

### 議 事 録

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

ただ今より、「米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会（第2回）」を開催いたします。前回欠席をしておりました、事務局の齋藤が加わっておりますので、紹介をさせていただきます。では、始めにト蔵会長、あいさつをお願いいたします。

#### 【ト蔵会長】

あらためまして、新年あけましておめでとうございます。足元の悪い中、全員出席で、ただ今より第2回の会議を始めたいと思います。よろしくをお願いいたします。それと、スマホをマナーモードにさせていただきたいのと、議事録用に録音しますので、ご了解いただきますようお願いいたします。

それでは、議題に入りたいと思います。3番の議題、(1)の「米子市子どもの読書活動推進ビジョン（第4次計画）の素案について」、事務局より説明をお願いいたします。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

第1回の検討委員会でご質問いただいていたことが2点ございましたので、回答させていただきます。児童文化センターのほうで、パブリックコメントの意見を受けて取り組んでいることで、具体的に資料等を配っている実績があるかということですが、実際に確認しまして、健康対策課が他の資料と一緒に袋に入れて、読書にかかわる資料も、第3回のパ

ブリックコメントで出た後からずっと行っているそうです。他の米子市からの配り物と一緒に  
行っている実績があります。

「子ども用の大きな活字の本とかはあるのか」というもう1つの質問については、図書館  
長のほうでお願いをいたしたいと思います。

**【矢木図書館長】**

前回の質問の中に、障がいのある子どもさん向けの大活字本とか、そういうものがあるか  
というご質問がありましたけれど、大活字本につきましては、数は少ないですけれども、用  
意をしています。大人向けのものほど数はないですけれども、一応用意はさせていただ  
いています。そのほかにも、大人の方も同様ですけれども、点字図書でありますとか、バリアフ  
リーの絵本でありますとか、あるいはLLブックというようなものも、図書館のハートフルコ  
ーナーのほうに置いて、障がいのある子どもさん向けのものは用意しているというところ  
でございます。

**【渡邊副会長】**

足立委員が言われた、リーフレットとかの作成はどうですか。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

リーフレットについては、既に作ってあります。

**【渡邊副会長】**

議事録の2ページ、3ページで、前回配っていただきましたところでまとめていまして、  
足立委員さんが、2ページから3ページにかけて、リーフレットのことをずっと。大事なこ  
とだと思っんですね。お母さん方がマタニティのときにいただけるものとして、とてもいい  
チャンスだと思うので、そのときに、「ここで承知をしていなくて、調べて次回、もう1回、  
回答をさせていただきたいと思います。」というふうなコメントが3ページに残っているん  
ですけれども、私は、そのリーフレットのことに関しては、要するに、子育てをしている子  
どもの読書活動推進ビジョンの中で、わかりやすい一枚物のリーフレットを、何らかの形  
で一家に配ると、お子さんをこれから育てていくお母さんにはとてもわかりやすいと思  
う。

これが米子市の読書推進ビジョンであっても、それだけの文章を目にすることがほとんど  
ないので、そのリーフレットの作成が今後どうなるかということで、私は足立委員さんが  
とてもいい質問をしてくださったと思っていたので、この回答を今一度お願いいたします。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

清水図書館長の時代に作ったものを、現在も健診の時に配っています。

**【卜蔵会長】**

ただ、年数が経っていますので、もう1回、再考する必要があると思います。私もいた  
いで、始まったころは配布していたんですけど、その後、館長が変わられたりして、その  
辺りの確認が、できていません。私もですけど、あれは喜ばれました。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

更新をするという形は、まだ行っていませんが、その時に作ったモノを現在も配っています。

**【卜蔵会長】**

それを出していただければ、もう少し話がわかりやすい。図書館が持つておられると思います。

**【渡邊副会長】**

とりあえず、第3次計画の推進ビジョンで話し合いをした後に、前任の清水館長が作られたということらしいですけど、実際、私たち委員には配られていない。

**【福田委員】**

それは紙1枚みたいなものですか。

**【卜蔵会長】**

1枚を、A3だったと思うんですけど、切り込みを入れて、それを小さく折りたたんで、このサイズでいけばなるはずですよ。

**【渡邊副会長】**

定期健診のときに出かけていらっしゃいます、図書館の職員の方がご存じかもしれないんですけど、私が引っかけましたのは、それを作られてから時代が移り変わってきていますし、とてもいいご指摘をされたと思って、パッとそういうご質問が出るということはすごいと思っていたので、その回答をすごく心待ちにしていたところなので。

**【足立委員】**

確認ですけれども、前回私が聞いたのは、要は子どもができて、手帳をもらえますよね。そのときに一緒に、「これから生まれてくる子どもに、絵本とかそういうものを読ませると、とても育児に良い、胎教に良いという、そういう冊子を配ったらどうですか。」というパブコメが3次計画に出た。市民の方からそういう意見が出たので、それについてそういうものを作ろうかと取り組まれましたかという質問なんです。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

第3次のパブリックコメントを受けて冊子を作って、配っているということです。ただ、その時に作ったモノを更新していないので、多少、改善の余地があると思いますが、母子手帳と一緒に配るということは、現在も続けています。

**【卜蔵会長】**

母子手帳というのは、妊婦さんになられて、健対にもらいに行くということで、そのときに、「胎教にも良いですので、どうぞ絵本を読んでもくださいね。」というようなメッセージを添えて、一緒にお渡しするということですよ。

#### 【足立委員】

健診の時には渡しているけれども、母子手帳をもらうときには渡していないということですか。

#### 【渡邊副会長】

そのところなんですけど、ブックスタートを、ボランティアがずっとローテーションでやっている。毎月の定期健診の時に。そのときに、ブックスタートの時に2冊が1冊になります。米子市から絵本を渡していますよね。私は、そのときに渡している時だと思っていた。なので、その後、改定も何も、私たちは目に触れていないので、元々なかったもの。

でも、子どもの読書推進ビジョンの中で、私たちが今この話をしている中で一番大事なところは、お母さん方がそれを手に取って、いかに読書が大事か、こういう本から読んだらいいということがわかる最大の効果だと思う。それを、ここにお集まりの皆さんで協議することも大事なのではないかと思って、足立委員さんがパブリックコメントの中にあつた冊子配布を言ってくださった意見の回答をお待ちしていた。だから、もし今ここでダメでも、まだ2回目、3回目があると思うので、次の時でいいと思います。ブックスタートに職員の方が出かけて行っていらっしゃいますから、私たちも非常にいいと思います。でも、私たちはまだそれを手にしたことがないので、その質問と併せて、次の時の回答でいいので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### 【卜蔵会長】

いろんな意味で、多岐にわたって情報収集をし、赤ちゃんが生まれる前に、お母さんたちに、久しぶりに絵本を手に取ってみようかなと、そういう機会をどうやって作って、本に近づいてくださるかということ、一番ここで検討しないといけないと思う。

それでも、もう少しいろんなところで、まだ落ちているかもわからない情報収集を、どうやってここに文字として入れ込んでいくかということが、一番大きな課題かと思っています。課題を、ここでは成果が上がるような、そういうようなビジョンをつくり上げていけたらいいなと思っております。優秀な委員さんばかりなので、お願ひいたします。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

もう少し詳しいことを調査したうえで、第3回の時に回答させてもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

#### 【矢木図書館長】

そういうものがあつたということを知っている職員はいました。データはどこかにあるかもしれませんが、現物が残っていません。

#### 【卜蔵会長】

次回で結構ですので、お手数かけますけど、もしデータで保存してあつたら、それをプリントアウトしてください。

**【矢木図書館長】**

また調べてみます。今、何人かの職員に聞きましたが、図書館には、現物はないということです。また調べて、用意をさせていただきます。

**【卜蔵会長】**

皆さん、ご了解いただけますでしょうか。

「異議なし」という声あり

**【卜蔵会長】**

そうしましたら、事務局、4次の素案の説明に入っていただけますか。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

第1回の際は、最初から説明をし始めておりましたけれども、皆さんが事前に送付資料を読んできてもらってあるということで、そこを割愛して話し合いの時間を長く持とうということでございましたので、先ほども指摘を受けましたけれども、足立委員のほうから数値目標を設定したらどうかとか、いろいろな改善点とかを直したつもりで案を持ってきておりますので、これらについて協議願えればと思います。

**【卜蔵会長】**

委員の皆様、おわかりでしょうか。事前に送付頂いた資料を読み込んでこられたという前提で、皆さんからご意見なり質問なりをお聞きしたいと思います。私は、足立委員さんからの提案の、数値目標というのを、今回はぜひ取り上げていきたいと思っております。

**【足立委員】**

数値目標を書いたものを見させてもらいましたが、少し残念かなと思いました。いろいろ数値目標がある中で、いろいろ考えられたりしたものもあるんでしょうけれども、これまでの5年間でつくり上げたものをそのままやっていけば達成できるような数値目標があります。例えば、ヤングアダルト冊子。各5年間、300冊ずつ増えていますよね。それを同じようにやっていけば、目標達成ができてしまうような数値目標が作ってあります。

いろんな数値目標があるんだけど、一番根本的な部分で、子どもたちが読書を好きかとか、本をたくさん読みたいとか、そういうようにしていくのが一番大きな目標にすべきだと思う。それから見ると、1つ良い数字が出ているのは、県の推進計画の中に、読書が好きな子どもの割合が出ている。鳥取県で中学校が何パーセントとか、小学校が何パーセントとか出ているし、平成29年に県が調査したのものにも、小3と小6と、高校生も含めて何パーセントぐらいが読書をしているとか、そういう数字が出ている。

あれを参考にして、米子市も数値目標をそこに付けてやったらどうかと思う。具体的な話をすれば、平成31年の3月に、鳥取県の推進ビジョンの中に、「読書は好きか」という問いに「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの数の割合が出てくる。

これは鳥取県全体の数字だと思うので、米子市の数字も多分出ていると思う。

県全体に対して、米子市の数字が高いのか低いのかよくわかりませんが、例えばそれをどのくらいまで持っていく数値目標にするのかというところが、一番根本的な目指すところではないかと思います。その細かい下位目標として、貸出の冊数だとか、そういうものもあるにしても、目指すところは、本を読むことが好きだとか、毎週本を読んでいるとか、そういう子どもをたくさん作っていくというのが推進ビジョンの目標なので、その根本的な一番のところを数値目標にすべきかなと思います。

#### 【福田委員】

今、足立委員さんが言われたことと、前回の概要を見させて議論に入っていく中で感じたのは、私たちは行政としてこんなことをしていますということは、たくさん書いてあるんですけど、その結果、肝心の子どもがどうなったのかとか、目指す子どもの姿とか、そういうところがそもそも欠けているのではないかと。例えば、1つのゴールとして、中学校3年生の15歳の姿ということで、目指す子どもの姿を考えたときに、まず語彙が少なくなりました。言葉を知らない。それから、文を早く読めない。すごく時間がかかります。

これらが小さいときからの本と親しむ時間の減少と関係があるかどうかはわかりませんが、そういうことを考えたときに、まずは米子市として、15歳なり18歳なり、社会に出ていく、あるいは義務教育が終わる段階で、読書の面において、今言われた、読書が好きとか、本が好きとかという子どもが何割になればいいなということはずごくいいと思いますし、そういうようなものがまず必要ではないかと強く思いました。

併せて、図書館はこんなことをしていますとか、公民館はこんなことをしていますとか、児童文化センターはこんなことをしていますということは書いてあるんですけど、逆にそれを拾っていかないと、一人の子ども、一人のお母さんが、0歳から15歳なり18歳なり子どもを育てていく中で、どういうところが何をしてくれるのかということが非常にわかりにくいと思います。

なので、少なくとも、今お話がありましたけど、1ページで、例えば0歳から15歳まで子どもが成長していく中で、この段階では子どもにこういう働きかけがあります、この段階ではお母さんにこんなことをしていますとかということがわかるようなページは、ぜひ設定いただけたら、それを見れば先も見越せますし、こういうものを作る意味があるのではないかと思います。

#### 【卜蔵会長】

今日のあれが、パブリックコメントに載っていくんですね。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

今回、委員の皆さんからこれに意見をいただき、それを加味した形でパブリックコメントを取る予定でございます。

#### 【卜蔵会長】

それに関係する施設は使っているんですけど、じゃあ私たちが追い求めるものは家庭だと思う。その家庭に、私も平成19年に公立保育園10園と、福祉会と、市内の子育て支援セ

ンターで、絵本がどのくらいの頻度で読まれているかというアンケートを取った。あれから結構年数もたっています。先ほど福田委員さんもおっしゃいましたが、話をしても中学生とか、かみ合わないときがある。本を通していろんな付加価値が付く。そういうところも大切な部分だと思いますし、この第4次がどれだけの皆さんにご理解いただけるビジョンを得られるか、どんどん委員の皆さんから意見をいただいて、それを集約したものを策定していかないといけないと思います。

#### 【山本委員】

お母さんたちの意識はとても差があります。関心のある方は、お休みの日とか、図書館に行かれてたくさん絵本を借りて帰られて、それを繰り返し、一年に何十冊、何百冊、すごく読んでおられるんですけども、全く関心のない方は、毎週絵本の貸し出しはしているんですけど、読まずにそのまま月曜日に返される。保育園のほうからも、絵本に関するお手紙とかは配布しているんですけども、それすら読んでくださらない節もあります。

なので、関心のある方はどんどんされますし、一番課題なのは、絵本に関心がない、子どもさんに読んであげようかなという気持ちになれない親御さんに対して、どう働きかけをするのがいいのかというのは、いつも悩むところです。だから、大人自体が絵本に興味・関心がないということで、本を読んでおられないんだろなということは思います。その辺が難しいところで、一番悩むところです。

#### 【卜蔵会長】

逆に、子どもたちから、読んでくれと、そういうふうに親にですか。

#### 【山本委員】

それは、子どもはすごく言っている。子どもの姿を見ていると、すごく絵本が好きなのが伝わってきますし、私とかが読むと、「今日はどこを読んでくれるの？」みたいな感じですがよく言うので、本当に大好きなんだというのは感じます。なので、お家でどういうふうに、保育園で読んでもらった絵本を、「良かったね。」とか、取り上げてくださると、読んでもらったのが面白かったらまたお家で買ってもらったりとか、図書館で借りたりとか、そういうふうにつなげてくださるお家が、子どももどんどん絵本を好きになってくださるんですけど、逆に、保育園で読んでもらった絵本を借りて帰ったら、「もう借りてこないで、こんなお話は長いからよく読まない、とお母さんに言われた。」とか、その差がどうしてもなかなか埋まらないというところがあって、その子が親御さんたちにどのように働きかけるのがいいのか難しいところです。お手紙を出したり、朝とか夕方の送迎の時にもお話するんですけど、なかなか伝わらない部分があったり、絵本の大切さをわかっていても読めない方もあるかもしれないし、興味とか関心がない方もおられる。

#### 【藤原委員】

私たちは、小学校・中学校の合同でやっていますが、啓発活動を今までした記憶がありません。県のアンケートを、改めて今ご指摘いただいたのを見ていると、中学校3年生ぐらいになると、どんどん活字を目にすることがなくなっているんだなというのを目の当たりにしましたので、私たちができるのは、米子市全市の小中学校の保護者さんに対して、何かしら

啓発をしていく、それから、チラシを配っていくことなのかもしれませんが、そういったことからかなと思います。

【卜蔵会長】

いろんな団体・組織で、そういうふうに、赤ちゃんの時は絵本でしょうけど、それからだんだん大きくなるにしたがって、本を通して人としての成長もあると思いますし、そういうところを啓発する部分は啓発していかないといけないかな。

【藤原委員】

1点、私の記憶で、3年前、喜多川泰さんというベストセラーの作家さんに、市P連の保護者様向けの講演会をやった記憶があります。私はそれがすごく印象に残っていて、今でも手帳に全部、話をされたことを書いているんですけど、そういったのも、響くお母さんやお父さんには響いているのではないかというのは痛感しました。お金をかけてあげて、もっとたくさん保護者の方に来てもらえたら良かった。そういう活動も、私たちの計画の中に組み込んでいけるのかな、というのは感じました。

【卜蔵会長】

ケータイ・インターネットの研修会はPTAでもありますが、それと併せて、これも同時進行みたいな形で、資料でも両面で交付してくださるといいかなと思いました。

【湯浅委員】

今、幼稚園の山本委員が言われたように、親の関心が子どもに響くというのは毎日痛感していることなので、もう少し子どもの目線に立って、子どものためにやってほしいと思っている。じゃあどうしたらいいかという具体的な案は、ここでパッと出てこないんですけど、先ほど福田委員がおっしゃったように、目指す子どもの姿が欠けているという部分を、もう少しこの案の中に織り込めないものだろうかと思っています。ただ、今、各施設がこうやっている、ああやっているというよりも、視点をそちらのほうに変えて、軸足をそちらのほうにも少し持ってきたら、どんなものができるのかなと思っているんですが、いい面だけではなくて、何個かいい案が出てこないものでしょうか。

【卜蔵会長】

子ども会連合会で、子ども会も折を見て、そういうような講師でも呼んで、子どもたちに話してもらえるような機会でも作ってくだされば。点をたくさん作って面にしていく。そういうことになればたいしたものだなと思います。

【湯浅委員】

今まであまり、読書ということに関しては、子ども会連合会で取り上げたことはございません。大体、体験活動とか、それから、家庭教育という部分では、いろんな講演会でいろんな講師を呼んだりしているんですけども、まず一番目指しているのは、子どもの自立という、自立心を育てる、自尊感情を育てていくということに割と重点を置いて活動を進めています。

いろんな視点から、親と子を一緒に集めて、別々の講演の仕方をしてみたりというのは、だいぶ前からやっていて、それを何かいい結果に結びつけられないかなということ、手を変え、品を変え、今やっているところ。コロナでここ2年ほどは低迷中で、今年の3月はまた復活してやろうという案内を出すところで、オミクロンが出ています。でも、子どもたちが、読書活動が楽しいと思えるような施策、子どもたちが、子ども会活動が楽しいと思うような活動を、私たちが目指している。

同じく、本は本当に楽しいものだねというのが、小学校の時に朝読書とか、幼稚園とか小学校で、そういう手立ては、子どもは教わるんだけど、家庭に帰るとそれが育っていかない部分が多々あると思う。子どもに向けていきつけづくりというようなことがないでしょうか。こうしたらいいという具体策が浮かばない。

#### 【笠井委員】

皆さんと同じ考えになるんですけど、これをつくり上げないと、時間もどんどんたっていきますし、ここで具体的な意見が出てきますので、じゃあこうしようと合意してされたほうがいいと思います。足立先生が言われた、前回の一番大きな点が、数値目標を入れたらどうかということで、入っているんですけど、ところがこれがどうかという意見でした。私も、県の推進ビジョンに合わせていくということは賛成です。

それから、福田委員が言われたように、ゴールというか、「どういった子どもたちを育てたいか」というところが抜けているのではないかということについても、この中に、例えば2ページの、「子どもの読書活動を取り巻く状況」の後に、そういったページを差し込んでみたりとか、そういう具体的な意見が出ています。そうしましょうということです。みんなでこうしていこうということです。

#### 【卜蔵会長】

今、笠井委員さんのほうから、ポイントをここで改めて「どういった子どもたちを育てたいか」に沿ってしたらどうでしょうか、というご意見をいただいておりますが、いかがでしょうか。

#### 【渡邊副会長】

足立委員さん、福田委員さん、笠井委員さん、皆さんが言われたことはもっともなことで、ただ、これをつくり上げていかないといけない。一番大事なことは、目標を掲げて、どういう子どもを鳥取県は、米子市はつくるというか、目標を掲げて、それに向けていかないといけないということが皆さんの手に渡るようなリーフレットを、わかりやすく目を引く。それは他府県ですすでに行われていることで、お金もかけています。時間もかけています。

今回、例えば、大リーグでも大活躍の大谷翔平さんは本が大好きだった。だから皆さんも、彼が掲げたマンダラチャートの中に、本を読む。高校時代に出会った本のことを、いっぱいコメントを書いていらっしゃる。朝読書が僕を助けてくれて、更に自分の人生を豊かなものに向けていってくれた。だから、ただ単純に、大谷翔平さんが大活躍をする一番のものととの、子育てのところから学ばれた他府県もある。

そこでどういう幼少期に、お母さんたちと楽しんだこととか、それは大谷翔平さんだけではなくて、各都道府県の皆さんが、私も県の読書推進委員、文科省の地域コミュニティの中

で、子どもをどうやって読書に向けていくかという推進委員会に出させていただきます。鳥取県の代表として。ただ、その中で、皆さんが経験をしたことを振り返った中で、読書環境がいかなるものであったとしても、一番のものは家庭なんですね。

だから、ここの中で、子どもの読書活動を取り巻くところの一番のものは家庭環境。どんなに頑張っても学校に上がられて、途中で中学校になって、高校になって、県の数値からもわかるように、読書時間が無くなってしまふ。でも、小さいときに読んだ、お母さんのおひざ、お父さんのおひざ、おじいちゃん・おばあちゃんのおひざで読んだ温かいぬくもりとか、そのときにかいだ匂いとか、そんなものは、最初のもとのところで私たちが何か手助けをしないと。

あとはボランティアの人たち、学校の先生方の環境の中で、そういったことを掘り起こしていかないと、子どもたちは離れていってしまうのではないかと思うかもしれません。そのときに1冊でも出会った本があれば人生が変わるだろう。更に、読まなくなった後、塾で忙しい、部活で忙しくなったその後も、その読書体験、保育園であったり幼稚園であったり学校であったり、読書体験が心の中のどこかに残っていたら、それは大人になって、何歳になっても、本には必ず結びついてきます。それが生きる力になっていくと思う。なので、そのつながりの大事な根っこのところをもう少し言葉で広げていって、この策定委員会を進めていかないといけないと思っています。

#### 【卜歳会長】

まさしくそうだと思います。いろんな機会が、保育園、幼稚園、小学校まではあると思うんですけど、その前段で、家庭で親がどういう環境を整えてあげることができるのか。私たちの時代はなかなか本なんて買ってもらえませんでしたので、私も1年生から6年生で、学校図書館の本を全部読みましたけど、その中で自分の印象に残っている本は、本屋さんでようやく買って、まだ私の本棚にはあります。

そういうふうに、この本というのは、1冊、2冊は必ず持っていると思う。そういう環境をどうやって提案して、文字として、切れ目がないような子育てと、ずっと言ったんですけど、この読書運動も切れ目のない流れで方向性を示して、そして目的を持って数値を挙げて、目指す子どもと本、保護者と本、そこの辺りを皆さんと一緒に、もう少し絞り込んでいけたらいいなと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【湯浅委員】

後ろに用語説明がついた。これは、いい。優しいと思うが、いろいろと検討と課題があつて、それから推進項目がそれに書いてあるんですけど、最後の6番に、検討と課題にあつたようなことなんだけど、前回も出たWi-Fiのこととか、ICTの活用についてというのが載っています。この続きで、7番か8番になるかもしれませんが、今話し合いがあつた、目指す子どもの読書環境というか、こういう目指す子ども像を、読書に関することについて、家庭でとはいっても、その辺で今話し合われたことが次のビジョンにきちんと明確に書かれたらいいかなと思う。

今書かれていることは、課題と検討事項、それから、これから推進していくことという流れで作られているんですけど、もし削るところがあれば削るのか、次の分で、全く新しい分を作るといったら、またすごく労力があることなんですけど、今せっかくだいい話が出てくる

のが、どこかに差し込めるかという、そういうわけでもないではないでしょうか。そうすると、新しい項目で、今大事なことを話しておられているのを、何とかうまく7番目、8番目にまとめて、これが第4次の一番の、ICT のことも含め、次の読書ビジョンにつながっていくというふうにはまとめることができないでしょうか。

**【木下生涯学習課長】**

先ほどご意見をいただいたのは、2ページの「計画の策定にあたって」の「1」、「2」の後に、目指す子ども像を入れたらどうかというご提案もいただいたんですけども…。

**【卜蔵会長】**

計画策定の目的は、なぜこの読書ビジョンを推進するのかということ踏まえていかないと。

**【木下生涯学習課長】**

ここに目指す子ども像を載せて、そこに向けてということで、7番目で具体的取組みみたいなことが載せられれば、最後の7番目ということですかね。

**【湯浅委員】**

ここに入れてもいいですけど、ここに載っているのは割と簡潔な感じのことで、最後のほうには、具体的にこうしていきましょう、みたいなことが書いてあったので、どちらが適切かなと思った。これをずっと読んでみると、同じことを何回も読んでいるような取組と検討を読んで、そうだねと思ったら、次に推進でも同じような文章が出てきたという感じがするので、繰り返し読んでいるようなイメージになった。

**【木下生涯学習課長】**

22ページのところで、「目指す子ども像の実現に向けて」みたいなことで、具体的な取組みみたいなことですかね。

**【湯浅委員】**

そう思います。先ほど、数値目標のことも、どのように、どここのところに入れてくるのか。今書かれている数値目標自体は、別に必要ないことなのか。新しいアンケートを取ったような形の数値目標に入れられるのか。

**【足立委員】**

目指す子どもの姿とか、それは必要だという意見がありますでしょう。そんなに難しい言葉でなくてもいいかなと思う。要は、「本を読むことが好きで、進んで本を読んでいる米子の子」みたいな、そういうことを我々はこの推進ビジョンで目指すということをやまず頭で出して。こういう子どもたちを目指すという、本が好きだ、本を読んでいる、そういう子どもたちを、米子の子どもを育てるということは、この推進ビジョンの一番の目的で、それをどう測るかという部分では、数値目標がいます。それは何で測るかという、「全国学力・学習状況調査」を、毎年4月にするでしょう。これで、県のものに見られるように、「読書は

好きか」という問いに肯定的な意見を答えているのが何割ぐらいというのが1つの目標にすることができる。これは、平成29年度にやった調査で、鳥取県が74パーセントから75パーセントと出ています。これを80パーセントにしましょう、85パーセントにしましょうというのは、1つ目標にできる。そういうのを一番大元の、この推進ビジョンの柱にする。

そのほか小さいところで、枝葉に分かれたところは、図書館ではこうしましょう、児童文化センターではこうしましょうとか、そういうことは出ると思うんだけど、一番大きな目標としてはそこを掲げるというのが、推進ビジョンの作り方かなと思います。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

そのようにスローガンを大きく決めた後に細かな部分をつくるという形にしたいと思います。多くの時間がかかると思われますが改善した形で進めていきます。

#### 【足立委員】

「全国学力・学習状況調査」は、毎年4月に中3と小6を対象にやるんですけども、これは毎年やっているのので、経年経過が測れる。ところが、この「読書が好きか」という質問項目が変わっている。今年度から。昨年度はこの学習状況調査の中でできましたけど、令和元年までは、「読書が好きか」というような質問項目があったんですけども、令和3年度には「読書が好きか」という質問項目がなくなって、「学校の授業以外、1日あたりどのくらい読書をしていますか」と、より具体的になった。

そのデータはある。市教委に米子市のデータがある。それを見て、じゃあどこまで引っ張っていくのか。5年後を目標にするのか。それは1つの数値目標にすることができるかなと思います。それを作ると、目指す「本が好きで、進んで本を読んでいる子どもたち」というのを1つ掲げる。そういう米子市の推進ビジョンの立てつけにしたらどうでしょうか。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

学校教育課のほうでデータを持っていると思いますので、それは可能だと思います。

#### 【足立委員】

そうすると、毎年のチェックもできるということですか。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

はい。できます。

#### 【卜歳会長】

わかりやすく、簡単、明快。後は枝葉で、市立図書館だったり、児童文化センターだったり。ただ、「公民館の」と書いてありますけど、公民館は、本当に本は古いです。予算が1万円付けているところが一番大きくて、後は数千円です。

#### 【木下生涯学習課長】

公民館によりますので、毎年お金を工面して子どもの本を買っている公民館も中にはあるんですけども、総じて古めというのは確かにその通りです。

### 【卜蔵会長】

であれば、市立図書館と米子市児童文化センターは役割分担で。今、保健師さんも、管理栄養士さんも、社会福祉協議会の地域福祉担当も、公民館に出張っている。地域の子育てサークルの開催日に合わせて、私のところに出かけるアウトリーチの図書司書さんも、ぜひ配置してほしい。子育てサークルは0歳、1歳がほとんどです。そういう時にお母さんもおられます。

ぜひ、絵本がどれだけ子育てに大きくかかわってくるかということは、積み上げだと思っただけですけども、子育て支援センターでは、新開子育て支援センターは今月のおすすめの絵本のランク付けが掲示してあります。もう少しそういうふうな、小さいことでしょうけど、積み重ねていけば、本が好きな児童に、何割かはつながっていきけるのかな。

図書館が会場ですので、ぜひ図書館の職員さんに、お金がないのはよくわかっていますけど、月齢にあった絵本を図書司書さんに選出してもらったりして、どこの公民館にも少しだけでも絵本が蔵書できたら。見てください、皆さん。図書室はどこの公民館にもあります。そうすると、お母さんたちも手に取って、子どもに読んでくださる機会も増えたりするでしょうし、小さな積み重ねも、この推進ビジョンの中には反映できるのかなと。

この間は、福生西の生田館長は、サンタクロースに扮して子どもたちに絵本の読み聞かせをされ、福生西小学校の朝読書にも出かけていらっやいます。公民館の職員さんももう少し子育て世代、そして本をつなぐ潤滑油になってくだされば。今、山本委員さんが、保護者がなかなか時間がない中、本を読むことが不得手なのか、その辺はわかりませんが、そういうふうにもみんな、図書だけでも環境を整えていくことも大事な事かなと感じています。特に乳幼児は重点的に感じています。

### 【渡邊副会長】

公民館の活動で、人生大学みたいなものがありますよね。あれの中に、国際理解講座で、このあいだ大篠津に伺わせていただいたんですけど、その中にMO講座とかを入れることは可能なんですか？今、公民館には話をされたんですけど、例えば図書館職員が派遣されたり、子ども読書アドバイザーが派遣されたり、10回か6回かわからないですけど、毎月ありますよね。健康の部分と、それからどこかにバスで出かけて行って、そういうネットワークの中に公民館が入ってみたとか、絵本講座を2から3本、それをテーマに、どこの公民館も入れるようにして下さったら、動きは速いです。

### 【木下生涯学習課長】

全体の講座の中に、今は必ず人権問題と家庭教育は入れてくださいというふうをお願いをしている。それ以外にもいろいろ工夫して、全体の作り付けをしていただくようにしています。ですけども、その家庭教育の講座で、子どもの読書活動のことで取り上げてほしいということも、もちろん言えるでしょうし、人権と家庭教育とは別に、特に子どもの読書ということで、別項でもう1つ必須ということも可能ではある。

### 【卜蔵会長】

そういうことであれば、公民館大学の中で、家庭教育の中で、おじいちゃん、おばあちゃんに、お孫さんにでも、お孫さんはいないかもしれないけど、本が好きなおじいちゃん・お

ばあちゃん、いろんな機会をとらえていてもあると思う。米子市で読書アドバイザーは、渡邊さんと酒井さんと山根さんですか。

**【渡邊副会長】**

いえいえ、もう少しいます。20人ぐらいいらっしゃると思います。

**【卜蔵会長】**

そういう人たちを講師に招いて、PTAも講座を開いてくださると思います。保育園でもそうでしょうし、小学校も朝読書の皆さんの背景だったり。そういうふうに、意識づけの仕掛けはしていかないといけないかな。大きな目標は出てきましたけど、それに近づけるためには、いろんなところでそういう思いを伝えていく。意識を伝えていく。

**【笠井委員】**

先ほどから、読書習慣の問題は家庭が大事だということは、私もそう思います。そうすると、これを見たときに、家庭・地域・学校、みんな同じような、どこに重きを置かれているか。そうすると、このビジョンは、スタート時の家庭の読書活動を推進というところに重きを置かれているというのが、これを取ったときにわからないのではないかな。

そうすると、13ページ、14ページの辺りを、例えば13ページにもビジュアル的に体系図が出ていますけど、これも具体的にどうしたらいいかは言えないですけども、家庭というのは大事なんだなということがわかるような図に変えるとか、あるいは14ページに、先ほどから卜蔵委員が言われたような、公民館の講座みたいなことも盛り込んでみるとか。あと、この14ページに書かれているようなことをビジュアル的にやっていくと、1つのリーフレットみたいなものもできると思う。そういうページを差し込んでみるとかすると、見た人が、家庭が大事なんだなということがわかってもらえる。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

今、委員の意見を受けまして、できるだけ文字だけではなく、図を見ただけで家庭の重要性がわかりやすい形に改めたいと思います。

**【渡邊副会長】**

リーフレットの中を、次回ご提示いただくと思うんですけど、その中に足立委員が言われたスローガンのものを、「米子の子どもは本が大好き」とか、わかりやすいスローガンを入れてほしいと思います。「本が大好き米子の子ども」とか、わかりやすい言葉を入れていただけると、「子どもたちがみんなで頑張りましょう」みたいな、みんなが向かっていけるような設計にしてほしいと思います。

**【卜蔵会長】**

これはどこかに入ってきますか。12ページの「子どもの読書活動推進ビジョン推進体系図」、どこかに入り込みますか。この図がどこかに記載されますか。

#### 【若林主幹兼社会教育主事】

リーフレットに図を入れるということですか。図をどこかに記載するという結論になり、リーフレットを新たに作るであるならば、それに入れることは可能です。

#### 【渡邊副会長】

もっとリーフレットは具体的なことをわかりやすく。ガイナーレ鳥取がいいリーフレットを出しましたよね。あれは参考にできると思いました。県も、ガイナーレの選手の皆さんが、僕が読んで感動した1冊とか、今の僕があるのはこの本との出会いだったとか、それぞれの選手が何回か分けてくださったけど、あれはすごくわかりやすく、みんなの手に行き渡ったような気がします。「少なかったな、発行部数が。」と、ガイナーレの選手の皆様も言っていました。

でも、大谷翔平さんたちのコメントがもらえたら嬉しいです。でも、花巻の時の読書歴は朝読書で残っているということです。だから、注目を浴びるというのはおかしいですけど、こんなふうみんな絵本とかかわった時代があったとか。菊池選手もそうですよね。僕が書いた1冊の本との出会いとか、いろんなのが載っていると思います。

#### 【木下生涯学習課長】

大変に参考になる意見をたくさんいただいて…。

#### 【卜蔵会長】

文字が多くななくても、パッと見てそれを読み取ってくださるような。文字数が書いてあるよりかは、特にリーフレットは。

#### 【木下生涯学習課長】

ビジョンの方は、まずは何が大事なのかというのがわかるように、大目標は大変わかりやすくいいと思いますので、そこはぜひそのような形にさせていただきたいと思います。リーフレットは、新しいリーフレットも、前ではなくて、今度からこのリーフレットを作るということですね。こちらで作るのか、司書さんに作ってもらうのか。

#### 【矢木図書館長】

少し考えさせてください。ここで市立図書館がリーフレットを作りますとも言えないですし、子ども全般に係ることなので。いろいろやることはやりますので、そこはまた検討させていただきます。

#### 【卜蔵会長】

4、5年前、全国でどこの研修会に行っても、家読書の実践発表があった。残念ながら、鳥取県は1例も出てきませんでした。私たちも毎年、九州の福岡県立社会教育総合センターで、中国・四国・九州、そこから事例発表が出ています。どこも家読書といって実践発表されましたけど、今、0歳からお子さんを保育園に預けて、共働きで、絵本と出会う機会が少ない家庭は、確かにデータとしてはあると思う。そこをどうひも解いていくか。1年に数回でも、子どもさんに絵本を読んでくださるような、そういう支えができれば、ノーベル賞が

もらえるかな。

あきらめないでどうやって、私たちも声掛けができるか。そこは皆さんの共通認識として、声掛けだったり、絵本の読み聞かせの機会だったり、そういうことを地道にやっていかないといけないかな。私もこの数値目標を、非常に今回、新しい推進ビジョンに取り入れることができ良かったと、正直、思っています。

**【笠井委員】**

19ページなんですけど、「学校における子どもの読書活動の推進」というところで、19ページの下から6行目、「例えばこれまで紙の図書のみで行っていた朝の読書などの取組についても、子どもたちに紙の本と電子書籍を自ら選択できる環境を整え、読書活動の推進を図る」というところなんですけど、「推進を図る」という言い切った表現よりは、小学校はこういう議論はまだ十分現場でなされてなくて、例えば「図ることも考えられる」とか、表現をぼかしてもらおうと。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

そちらの表現の方がいいと思います。こちらは読書に電子書籍についても取り入れようかということを表したものでした。そちらの表現のほうがいいと思いますので、改めたいと思います。

**【ト蔵会長】**

19ページの上の、「蔵書数補完イメージ図」なんですけど、市立図書館が移動図書館車で公民館、児童文化センターが団体貸付で公民館へ。他は無いのに、急に公民館の項目だけ図が出てきたが。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

公民館は、館にもよりますが、ほぼ本を買うお金がございません。本の不足を補完するために児童文化センターからは、団体貸出をするという形を今取っていますし、市立図書館からは、移動図書館車に来てもらって、本の足りない部分を補っています。そのことをイメージしやすくするために作ったのが、この図です。

**【ト蔵会長】**

市立図書館は、移動図書館車だけでなく子育てサークルに対して50冊ぐらい貸出はされています。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

それは承知しておりますが、ここは、公民館自体のことを書いたところです。館により、かなり差があるので、同様に語れませんが、蔵書が少ない館は、このような形で本、資料をそろえて子どもたちの読書機会を確保するというイメージ図です。

**【木下生涯学習課長】**

図はなくてもいいのかもしれない。他は無いのに、急に公民館の項目だけ図が出てくると

いうのはバランスが悪い。

**【卜蔵会長】**

令和4年度から、公民館事業も変わってきますよね。市長部局に移管されて。確かに予算は少ないけど、私が言いたいのは、公民館の中に本を保管するスペースを必ず確保してほしい。成実が無い。宇田川、大和も地域子育てサークルがありませんので、無いけれども、夏休みだと小学生も来ていると思いますので、絵本なり本を保管するスペースを、公民館が確保して欲しい。おもちゃを置くところもないサークルがあります。そういう本が見える化をして欲しい。市立図書館からの貸出、大人が使う時も、「何だこれは」と言われる、広い学習室。これは要望でございます。

**【福田委員】**

11ページの「3. 2 幼稚園・保育所・認定こども園の取組と課題」の一番下のところに、「市立図書館や児童文化センターの連携が少ないことが今後の課題である」とありますし、学校も図書館から色々本を貸していただいたりとかということで、すごく助かっている点もあるので、公民館だけではなくて、保育園・幼稚園・認定こども園等についても、同じくくりで行き来ができるというようなことを、明確に図に出していただきたい。なので、公民館のところに入れるのではなくて、図書館の取組として、こちらにも、こちらにも来ていますということ。

別件でよろしいでしょうか。先ほど、笠井委員のほうから、朝読書の件があったのですが、中学校の立場で言うと、すべての学校で朝読書をやっています。非常に大事な時間で、朝、シーンとしてページをめくることがある状況の中で、今年からタブレットが1人1台配られました。このタブレットをどう活用していくかということが、学校では非常に大きな課題の中で、ICTと読書活動の推進をどうつなげていくかという議論がちゃんとできてない中で、朝読書に電子書籍を入れてもいいのではないかとするのは、まだ議論が足りないような。

学校の立場から言うと、タブレットで生徒が朝見たら、家でスマホで電子書籍を読んで、それをまた学校のタブレットで読むんだったらまだいいかもしれませんが、そのところの話はもう少し議論を深めないと、これがポンと出てしまうと、一人歩きしがちな危険性もあるので、22ページにも同じようなことが出てきているんですが、次は5年後になると思うんですけども、今の段階ではまだ早いような気がしますが、いかがでしょうか。

**【渡邊副会長】**

学校の現場は、紙と電子書籍のどちらでもいいというふうになっているんですか。

**【福田委員】**

なってないです。今は、朝読書の時間にタブレットとかを利用ということはないはずです。

**【渡邊副会長】**

安心しました。そのままでいいと思っています。

【福田委員】

なので、19ページの、「例えば」からの一文を丸々カットしてもらったほうが。こういう時代なので、電子書籍とかを全否定するわけではないので、それはその前に、可能なところから実施をしていくというところに書かれています。

【若林主幹兼社会教育主事】

現状は、課題もありますので、この一文は削除をいたします。

【福田委員】

22ページの7行目もです。

【卜蔵会長】

福田委員さん、私の友達が、後藤ヶ丘の朝読書に入っています。すごく集中して聞いてくれるので、自分のほうが息をするのも、でも、声を出さないといけないし、男の子は特にシーンとして聞いてくれて、終わったら涙が出そうだった、と教えてくれえた。皆さん、中学生が朝読書の時に、シーンと静まり返って、読んでくださる人の声を聞いているということ想像できますか。教室の中が静まり返っている。ほとんど音がしない。そういう読み手の声にもそうだと思うんですけども、ずっとそれが小学生から続いて、中学生になっても、朝読書の時間がそれだけ重要なことだと、彼女から聞くといつも思うんですけど、急に中学生になったから静かに聞けるというものではないですよ。

【若林主幹兼社会教育主事】

ICTに係わる部分については、まだ早いということで、今後の研究課題にさせてください。

【卜蔵会長】

まだ学校現場で議論があまりされてないのに、ここには上げることはできないと思います。委員の皆さん、よろしいですか。

「異議なし」という声あり

【卜蔵会長】

それと、私は、Wi-Fi がなかなか設置していただけないところで、いろんな応用で使えると思うんですけど、市立図書館、児童文化センター、各公民館、ポケットWi-Fiでも入りませんでしょうか。県は使っています。

【木下生涯学習課長】

ポケットWi-Fiは、あまりよくないという話を聞いていますので、導入を簡易的にしようかということも検討したんですけども、大人数で使うのに品質が保てないみたいなことがあって、あまり現実的ではないみたいな。

**【卜蔵会長】**

「用意ドン」一斉にでなくても、随時Wi-Fiのほうを取り入れてくだされば。

**【木下生涯学習課長】**

もう1つは、どのぐらいそのニーズが、というところで、本当に必要な場合には、例えば公民館でしたら、公民館までにはインターネットが来ていますので、使われるときに、「こういうことで使いたい」と言われたときには、Wi-Fiの環境を、ルーターをお出しして提供するということは今でもやっています。フリーWi-Fiではないんですけど、必要なときにはWi-Fiの環境は提供しているのが現実です。

**【卜蔵会長】**

知っている人は知っているけど、知らない人は知らない。

**【渡邊副会長】**

全体的にICTは当たり前の現代において、米子市が一番遅れているということは、皆さんおわかりになったと思うんですけど、例えばヤングアダルトのコーナーの本が中々貸出に出ないとか。だから、はっきり申し上げて、高校生にもすごくインタビューしたんですけど、Wi-Fiが入っていないから、やむなくスタバにコーヒー代を払って、そこで調べ学習をしている。そういうことの意味がたくさん出ているけど、高校生たちはどこにWi-Fiを頼んだら入れてくれるとかわからない。「声の箱があったでしょう。」と言っても、どういうふうに入れていいかわからない。ないものだとかきらめている。

そんなままで、そういうことを知っている大人たちが何も行動しなかったら、この図書館、米子市はどんどんこういうICTから遅れている。一番の情報発信源であるべき図書館に入れて当たり前だと思うところが、どうして動かないのかなと不思議に思っているところなので、Wi-Fiは必要だと思う。貸出ができることとか知らないと思うので、一般の市民は。あって当たり前だと思っているので。

**【木下生涯学習課長】**

個人的な利用は、個人のもので使われるというのが原則かなと思います。ただ、リモートを使って講師さんの話を聞いたりとか、会議をしたりとかという時には、なかなか個人のスマホとかは使えないので、そういう時には施設のWi-Fiの環境をお出しする。そういう場合であつたら、Wi-Fiでなくても有線で繋いでもいいのかもしれないですけども、なかなか常にフリーWi-Fiをすべての施設に用意する必要があるのかという議論になると、なかなかそれが本当に必要かなというところに戻ってしまう。

**【渡邊副会長】**

全ての施設でなくても、米子市の図書館に関しては、市民からかなり声が上がっているので、スタートはここを入れていただければと思います。

**【木下生涯学習課長】**

なかなかこちらの事情というのは、そういった事情があつてということですので、必要で

あれば、その環境はお出しするという前提で、全体的なフリーWi-Fi は入れてないというのが現状です。

**【渡邊副会長】**

高校生は、例えば調べ学習とかをしたいときには、カウンターに申し出たらお貸しされるということですか。

**【木下生涯学習課長】**

図書館は、まだそこまでしていない。逆に、インターネットを使える環境は、別途用意してありますので、そちらでしていただくというのが基本的な考え方。

**【渡邊副会長】**

実際に社会人の方とかは、ルーターをここに運んでやっていらっしゃる現場を何回か見ているので、もうWi-Fi はあって当たり前ではないかと思うので、意見としてきちんと取り上げて欲しいところです。

**【ト蔵会長】**

それと、会長として、図書館も児童文化センターもそうですけど、ホームページに、「本を選ばれるお手伝いはいたします。」とか、「アドバイスをします。」という、大きく言えることはできませんか。お母さんたちは、月齢に合った、どんな本を読んでいいかわからないというお母さんたちが多。地域の子育てサークルに。「図書館に行けば教えてください。」と言いますが、中々カウンターで、勇気がいるそうです。そういうふうには、ホームページに、「いつでもどうぞお越しください」というような、大きく見えるように入れてくだされば、1人でも絵本を借りに来る方をつなげたいなと思います。

**【渡邊副会長】**

市報に情報を入れることはできるんですか。

**【矢木図書会長】**

正直、市報はなかなか難しい。ホームページのほうは、何とか工夫して、やりたいと思います。

**【ト蔵会長】**

児童文化センターにもお願いします。私も言いますが、事務局からも言ってください。

**【福田委員】**

それも重要ですが、今は、ビジョンの第4次計画の話をしませう。期限もあることだし、なんとか作り上げていかなければならない。

**【卜蔵会長】**

何かありますでしょうか。

**【山本委員】**

細かいことなんですけれども、17ページの「児童文化センターにおける読書活動の推進」というところで、大体具体的なことがそこに書かれているのに、(5)だけが「保育士、保護者への関心の啓発を図る」という、全く具体的な内容が出ていない。これはどういうことをされているのか。というのが、保育園のほうとしては、児童文化センターを結構使わせてもらったりしているんですけれども、この児童文化センター側からの啓発というのが感じられない。ただ単にここを埋めるために入れてあるみたいな気がする。保育士という文言が目に入ったので気になった。もう少し具体的に啓発、働きかけとかがあるのかなと思って、その辺はどうなんですかね。具体的なことが見えない。それがとても不思議。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

これは、児童文化センターの業務の中で何か働きかけをするという意味合いについて書いたものです。場合によっては削除という形になるかもしれませんが、持ち帰って確認及び検討します。

**【卜蔵会長】**

(12)もそうなんです。中学生や高校生を対象とした職場体験の受入れを行っている。」だけで、ここで読書につながるというと、カウンターでいる時がありますので、それをもって？こういう体験をしていますという、「受入れを行う。」と、そういうふうに書いてあると、なおよくわかる。読書活動の推進に対して、職場体験の受入れを行うという。ここもよくわかりません。

受入れて、じゃあ、本にかかわる何をしたいんですか。そこを文字であげれば、こういう職場体験をしていますよと。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

職場体験することによって、本に親しみ感じ、読書の切っ掛けになるという意味合いです。ここについては、表現を工夫させていただくことで、残させてもらうということをお願いします。

**【福田委員】**

どうでもいいことですけど、20ページの(7)のところですけど、「市立・組合立」とか、17ページも「市立学校・組合立学校」と書いてあるんですけれども、こういう場合は、「米子市（組合）立学校」というふうに書くことが多いと思うので。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

これは第1回の時に組合立という言葉について質問があったので変更しましたが、「米子市（組合）立学校」という形に戻します。

**【福田委員】**

もう1個、11ページに、「3. 2 幼稚園・保育園・認定こども園の取組と課題」の上に、令和2年度より夏休みの勤務が可能になったというくくりがあるんですけど、この最後の、「夏休み中の学校図書館開放が課題となっている。」とあるんですけど、これはどういうことでしょうか。勤務が可能になって、学校ごとに夏休み中に図書の貸出ができるということも、していたりしていなかったりというところだと思うんですけど。

これは、夏休み中の学校図書館開放が課題となったので、勤務を可能にしたということですか。これでいくと、勤務が可能になった、でも、最後に、「夏休み中の学校図書館開放が課題となっている。」

**【湯浅委員】**

これは「学校の取組と課題」ですよ。それでもいいけど、「夏休み中の学校図書館開放が課題になっていたが、令和2年度から…」というふうにしても、課題が解決したということがわかるのかなと思います。そういう意味で、後から課題を付け加えられたのではないのでしょうか。

**【ト蔵会長】**

これはいらぬのではないかと。11ページの(5)の下の方。「令和2年度から学校司書の夏休み中の勤務が可能となった。」この、「夏休み中の学校図書館開放が課題となっている。」これはいらぬ。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

全文を削除いたします。

**【湯浅委員】**

「3. 2 幼稚園・保育所・認定こども園の取組と課題」のところの(3)の下に、「乳幼児期の親子のきずなを深めるために」というくだりなんですけど、「家庭での読書活動には差が見られる。市立図書館や児童文化センターとの連携が少ないことが今後の課題である。」家庭の読書活動の差が、家庭と市立図書館や児童文化センターの連携が少ないことが課題だったら、何か取組があったんでしょうか。確かに、家庭に差があるという問題が大きく出ていたんですけど。

**【ト蔵会長】**

図書館と児童文化センターとの連携が少ないことは、原因ではないと思います。

**【福田委員】**

これは、幼稚園・保育園等が貸出を行っているけど、差が見られるので、幼稚園・保育園等と市立図書館や児童文化センターとの連携が少ないことが今後の課題、という意味ではないですか。

**【湯浅委員】**

そこを、「幼稚園・保育園と、市立図書館や児童文化センター」、そういうふうに入れてもらわないと、読み取れないのではないのでしょうか。

**【卜蔵会長】**

家庭がとらえてあって、その下に、急に市立図書館や児童文化センターの、その理由が、連携が少ないことが課題となっている。幼稚園や保育園や認定こども園が、もう少し市立図書館や児童文化センターと連携をしてくださいという意味ですね。これは別物で、行を変えていかないと、続きで読んでしまいませんか。

**【福田委員】**

逆なような気がします。市立図書館や児童文化センターの側から、学校がしていただいているような、本を自由に、必要なときに借りたりとか、そういう連携を、市立図書館や児童文化センターのほうが、幼稚園や保育園としていかないといけません、というふうになるべきではないか。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

今のご提案は、図書館や児童文化センターのほうが、もっと取組をする形に書き換えるということですか。

**【矢木図書館長】**

いつも思うんですけれども、学校にしても、市立図書館がなっていないから、みたいな雰囲気が出る。要は、市立図書館がもっとやらないから、子どもたちに本が行き渡らないというのがあるんですけど、言い訳ではないんですけれども、市立図書館はあくまで支援というか、そういった立場であって、これは私の個人的な意見なんですけれども、子どもさんと一番接するのは保育園の先生であったり、学校の先生で、そこが一番。そこへの支援、アドバイスはしっかりやらないといけない。ただ、そこに市立図書館の職員が出張って行って、そこで例えば、保育園の先生の代わりはできないと思いますけれども、私はそれをやっている。

市立図書館の中だけが、本を読めと言っているような雰囲気があって、それぞれの家庭にしてもそうですけれども、そういったところの人が、今ここに書いてあるようなこういうビジョンのことを、しっかりそこが、「周知・啓発」だと思うんですけれども、そこをやってももらわないと、最初に出ていた話だと思いますけれども、広がっていかないと。市立図書館は、一生懸命支援はしていきますけれども、保育園へ出かけて行って、市立図書館の職員が絵本の読み聞かせをしたりしないということではないんですけど。

**【福田委員】**

出かけていくという意味ではない。市立図書館にある本がすごく貴重なものなので、それが学校の生徒であれ、幼稚園・保育園の子どもであれ、より活用できるように、その本がもっと動くようなシステムがあればいいという意味です。そういうのは学校ができていますし、保育園は割とリクエストいただいているところが結構あって、出している。ただ、今言われるように、最初、会長さんが言われたように、まだまだ知られないところがある、そこが、

先ほども言われましたけれども、うちのほうのPR不足です。そこはしっかりやっていきたいと思えます。

**【卜蔵会長】**

館長さんが今、システムと支援という言葉が使われました。そこを入れ込んでいけば、別に私たちは、幼稚園や保育園に司書さんが出かけてということではない。本を媒体にして、どういうふうにつながってイけるかということ、市立図書館と児童文化センターと図書室がありますので、支援という言葉でくくっていったほうが、館長として思われるのであれば、連携が少ないということではなくて、支援をします。そういう言葉でくくったほうがいいのではないかと。言いたいことはよくわかりました。

**【山本委員】**

同じページの「4 支援が必要な子どもたちへの取組と課題」というところがありますよね。そこに(1)の「子育て支援課」と書いてあるんですけど、12月から子ども総本部になって、保育園は子ども施設課ですし、あかしやは子ども相談課。なので、これを打ち出される課は、子ども施設課と子ども相談課ということになると思う。これは令和4年の3月になっているので、変えられると思えます。

**【卜蔵会長】**

児童文化センターの「おおぞら号」は、支援が必要な子ども、どこを指していますか。

**【足立委員】**

これは各学校の支援学級のことです。

**【卜蔵会長】**

ところで、足立委員が提案されたスローガンは、メモされましたか。

**【足立委員】**

スローガンは、事務局でつくってください。事務局がきちんとつくって、ちゃんと文字にして、次回の検討委員会で聞かせてもらえればいいです。

**【卜蔵会長】**

数値目標については、県を参考にするということで、よろしゅうございますか。

**【足立委員】**

県というか、米子市の数値をつかって、米子市が令和3年度の、今年度の数値があると思えますので、それをどこまで5年間で引き上げるか。どういう目標にするのかです。

**【卜蔵会長】**

いかがですか。出尽くしましたでしょうか。

「異議なし」という声あり

【卜蔵会長】

事務局のほうで、何かありませんか。

【若林主幹兼社会教育主事】

いろいろ委員の皆様方から貴重な意見をいただきましたので、それを受けて案を改訂したものでパブリックコメントの募集をしたいと思います。

【卜蔵会長】

期日は？

【若林主幹兼社会教育主事】

1月20日から2月21日までです。

【卜蔵会長】

その前に、市議会の民生教育委員会に、このパブリックコメントに載せる資料は報告されるということですか。

【若林主幹兼社会教育主事】

1月18日に、パブリックコメント案を議会報告する予定ではございましたけれども、1月18日だからといって、17日までに議会事務局に資料を出すとかではなくて。実は、明日が、最終的に受け取ってもらえる日なので、間に合いません。

【木下生涯学習課長】

民生教育委員会の資料の提出締切は、明日ではなく1月7日ですが、いずれにしてももう間に合わないと思うので、1月は難しいだろうということです。

【若林主幹兼社会教育主事】

2月に中間報告という形で、「現在は、このような形でパブリックコメントを取っています。ここまで進んでいます。」という形で、議会のほうに中間報告をしたいと考えております。

【卜蔵会長】

パブリックコメントは予定通りですか。

【若林主幹兼社会教育主事】

予定通り、1月20日から2月21日までを…

【足立委員】

パブリックコメントを取るのに、まだこの推進ビジョンができてないのに、どうやってパ

ブリックコメントを取るんですか。

**【木下生涯学習課長】**

1月20日までに、今日いただいた意見をもとにして作った素案を、パブリックコメントに出そうと思っています。

**【足立委員】**

そうすると、我々検討委員会は、まだその素案を見てないけれども、パブリックコメントに先に出してしまうということですか。

**【木下生涯学習課長】**

スケジュール的にはそうなるんですけれども、でき次第、皆様にはお配りしたいと思います。作ったものをお送りさせてもらって、ご意見を個別にうかがいながら取りまとめをさせてもらって、再度ブラッシュアップしながらパブコメに出すというような形。

**【ト蔵会長】**

メールで送ってくださってもいいですけど、郵送でなくても。でも、素案には、皆さん、目を通したいですね。

**【湯浅委員】**

先ほど、私は足立委員の言葉に、「いいんじゃないですか。」と申し上げただけですし。

**【足立委員】**

メールで送られたモノを個別に各委員が修正したとしても、最終案がわからない。

まだ、一番大事なところが、全然文字にもなってないし、数値目標も設定されてない。それこそ、今年度の数値もわかってない中で、白紙状態。それを事務局が作られて、実行委員会が全く見ない中でパブコメに出すということは、良くないのではないか。もう1回、みんなが集まった方が良いのではないですか。検討会をもう1回、追加開催することは、できませんか。

**【若林主幹兼社会教育主事】**

当初、検討委員会を3回やって、最終的に決めるということにしていたんですけど、この場で委員の皆様がよろしければ、4回開催という形で、もう1回、今月中に、急遽ですけれども、検討委員会を開催してもよろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

※検討委員と事務局による日程調整を行い、1月19日を開催日とした。

**【卜蔵会長】**

その他何かございますか。(無いようですので)

今日はお忙しい中、長時間にわたりまして建設的なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。そうしましたら、第3回目は1月19日午後1時より開始させていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。事務局も忙しいでしょうけれども、よろしく願いいたします。